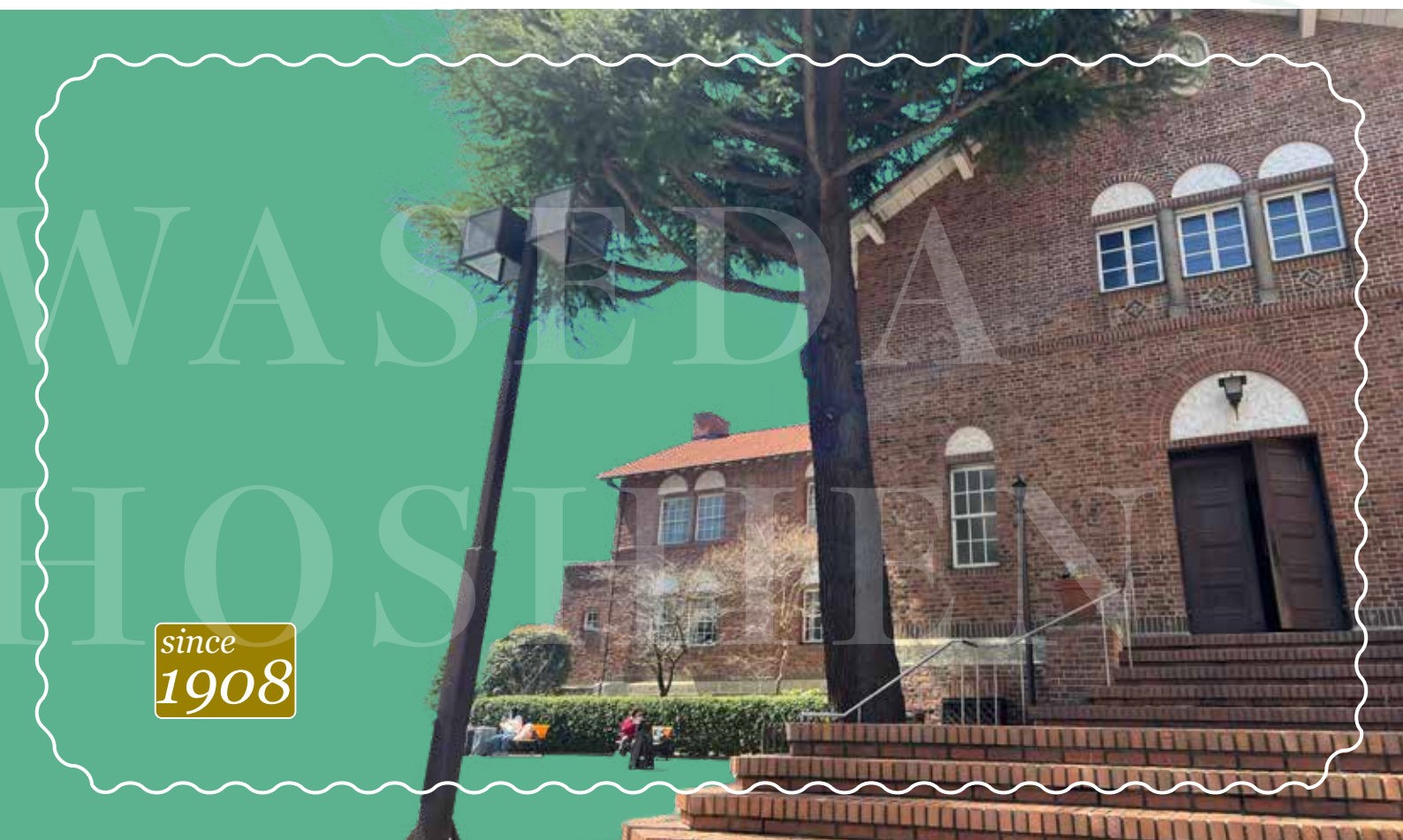


公益財団法人 早稲田奉仕園

2025 年度 年次報告

【2025 年 4 月 1 日～ 2026 年 3 月 31 日】

WASEDA HOSHIEEN ANNUAL REPORT



早稲田奉仕園 園章

“

そこで、イエスは一同を呼び寄せて言われた。「あなたがたも知っているように、異邦人の間では、支配者と見なされている人々が民を支配し、偉い人たちが権力を振るっている。しかし、あなたがたの間では、そうではない。あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、すべての人の僕になさい。人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである。」

”

マルコによる福音書 10 章 42 - 45 節
(新共同訳聖書)

公益目的事業

4

- 4 国際相互理解のための体験活動・普及啓発事業
- 7 国際相互理解を基調としたボランティア活動推進事業
- 7 国際相互理解のための語学講座・その他講座事業
- 9 学寮運営事業

収益事業

12

- 12 セミナーハウス事業
- 13 駐車場・貸事務所等の賃貸、管理受託事業

財団運営報告

14

- 14 決算報告
- 15 役員等名簿

公益目的事業

■国際相互理解のための体験活動・普及啓発事業

■国際理解講座 Global Understanding 沖縄フィールドワーク

平和祈念公園や読谷村で沖縄戦の歴史を学び、中部と北部では米軍基地問題について理解を深めました。また、ドキュメンタリー映画「あなたが私のパパですか？」の上映と監督トークを通じて、アメラジアン（米兵の父親と現地の母親の間に生まれる子どもたち）について学び、多角的に沖縄の状況を理解し、平和構築について学ぶことができました。

期間：5月3日～6日

参加者：11名（友愛学舎2名／国際学舎9名・韓国、アメリカ、イギリス、スウェーデン、ベルギー）



■日中韓大学生リーダーシップ育成キャンプ 2025 in Korea

前回の京都開催に続き、2025 年度は韓国の国立ハンバツ大学日本語科を拠点として、日本・中国・韓国から集まった大学生による国際交流プログラムを実施しました。相互交流ワークショップやフィールドワーク、パネルディスカッションなど多彩なプログラムを通して、それぞれが新たな学びを深めました。参加学生たちは共同活動や対話を重ねる中で、異なる文化や価値観に触れながら相互理解を深め、国境を越えたつながりを築く充実した交流が実現しました。

期間：8月12日～19日

参加者：29名（日本から13名、中国から4名、韓国から12名）

開催地：韓国・大田市&ソウル市



■年中行事を楽しむ会 Feel Japan

留学生が日本の文化や風習を体験し、国際理解を促進するプログラムです。

●歌舞伎鑑賞

レジデントアシスタント（RA）が引率を担当し、日本語ボランティアの会の方々の協力も得て、留学生たちとともに日本の伝統芸能に触れる機会となりました。参加者の多くにとって歌舞伎鑑賞は初めての体験であり、華やかな舞台演出や独特の所作に興味深く見入る様子が見られました。専門用語が多かったものの、英語による解説が用意されていたことで理解を深めながら鑑賞を楽しみました。

実施日：6月20日

参加者：12名

会場：サンパール荒川

●七夕イベント

七夕にあわせて、3号館1階ロビーに笹と短冊を設置し、寮生が自由に参加できる七夕イベントを実施しました。留学生たちは笹飾りを楽しみながら、思い思いの願い事を短冊に書き、積極的に参加していました。また、今年度も日本語ボランティアの会の参加者にも多くの短冊を書いていただき、交流の輪が広がりました。短冊には、大学生活や就職活動の成功を願うものや、平穏な日常への願いなど、それぞれの思いが込められており、日本の季節文化に触れながら温かな交流が生まれていました。



●餅つき

交換留学生や研究員、早稲田教会の大人や子どもたちが参加し、みんなで餅つきを楽しみながら、国際交流を深め、親睦のひとときを過ごしました。

実施日：2026年1月18日

参加者：33名

●ひな祭り

5号館ロビーでひな人形の展示を行いました。

■祈りの人 渡辺禎雄型染版画展～齋藤治子コレクション～ Vol. 9

敬虔なクリスチャンであった渡辺禎雄は、生涯にわたり聖書を題材とした型染版画を作りました。普遍的なキリスト教と日本の日常性との出会いから生まれたその作品は、国内外で高い評価を得ています。故齋藤治子氏のご遺族より寄贈された渡辺禎雄型染版画コレクションの中から、イエスの生涯の各場面を表した作品約20点を展示しました。

期間：12月18日～23日

来場者：50名

会場：スコットホールギャラリー



■国際相互理解を基調としたボランティア活動推進事業

■日本語ボランティアの会

対面クラスとオンラインクラスを並行して実施しました。予約制による事前マッチングの運営も定着し、学習者とボランティア双方にとって安定した活動環境が整いつつあります。2025年度はボランティア募集にも積極的に取り組み新規入会者も増加する一方で、学習者のニーズに対しては依然としてボランティア人数が十分とはいえない状況が続いています。そのような中でも、ボランティア一人ひとりが熱心に学習者に寄り添いながら活動を続けており、日本語を必要とする人々にとって大切な居場所となっています。

活動日：水曜日2クラス、金曜日1クラス

活動期間：2025年3月19日～2026年3月13日

参加者：合計81日（水曜日40日、金曜日41日）の授業日があった

延べ参加人数はボランティア881名、学習者2114名

活動方式：対面クラス・オンラインクラス



■野宿者支援給食活動への支援

学生が生活困窮者支援の現場に触れ、社会課題を自らの問題として捉える機会となるよう、関係団体との連携調整、場所の提供等を通じて野宿者支援活動を支援しています。活動への参加を通じて、他者を尊重する姿勢や社会参画意識を育み、市民としての資質（シチズンシップ）を高めることを期待しています。

共催：早稲田教会



■国際相互理解のための語学講座・その他講座事業

■多文化共生のためのボランティア講座

—地域日本語教室で活かせるアクティビティとともに—

多文化共生についての理論を学び、知識を深める参加者間でのディスカッションを通し、多文化共生社会の創生に資するためにどのような支援ができるのか、地域日本語教室活動を例に模索しました。

期間：5月25日～7月13日全4回、対面クラス

受講者：7名

講師：福村真紀子（茨城大学大学院助教、親子サークル「多文化ひろば あいあい」代表）



■ Let's 朗読

朗読の基本や声の出し方などを学び、詩や物語の世界で感性を磨いています。全 16 回全て対面クラスで実施しました。発表会などに向けて練習に励み、目標に向かって着実に実力をつけています。

期間：通年で前期・後期各 8 回開催

受講者：前期 7 名、後期 6 名

講師：飯島晶子（朗読家「VoiceK」主宰）



■ パイプオルガン・アカデミー

期間：4 月 1 日～ 3 月 31 日までに 80 レッスンを実施しました。

受講者：11 名

講師：水野均（桐朋学園大学講師、早稲田教会オルガニスト）

協力：早稲田教会



■ STUDY HALL

「STUDY HALL」は、主にアメリカなどで「自習室」という意味で使われます。あらゆる世代の人が、楽しく学べる場として、「近いこと、遠いこと、近くて遠いことを学ぼう」をテーマに、講座・トーク・映画上映会・写真展・ライブなどのイベントを不定期に開催しています。

● STUDY HALL vol. 44 記録映画〈戦後在日五〇年史 在日〉から 30 年 上映会 & トーク

～在日女性・クィアが語る、あれから変わったこと・変わらなかったこと・そしてこれから変えたいこと～

1945 年から 80 年の節目にちなんで、在日コリアンの通史を追った呉徳洙（おどくす）監督のドキュメンタリー映画〈戦後在日五〇年史 在日〉（歴史編）を上映しました。この映画が公開された当時から約 30 年経ちましたが、それから在日コリアンの状況がどう変わり、変わらなかったのか、ゲストに在日朝鮮人人権協会より朴金優綺（ぱくきむ うぎ）さんをお招きし、在日女性やクィアの視点から「日本を生きること」について、そしてこれからの百年史に向けてのアフタートークを行いました。

開催日：11 月 8 日

参加者：107 名

会場：スコットホール

登壇者：朴金優綺さん（在日朝鮮人人権協会）



■オンライン・聖書講座ー『LGBTQ +と聖書 みんなで考えてみよう!』(共催)

講師の著作『LGBTQ 聖書はそう言っているのか?』を元に、聖書は性別二元論や異性愛主義の枠に当てはまらない人々を排除しているのか、聖書の文脈、古代の歴史的事情、そしてイエスの福音に基づいて掘り下げて検討し、読み方を紹介しています。

期間: 通年毎月第2火曜日全10回

受講者: 17名

講師: 藤本満(インマヌエル高津キリスト教会牧師)

共催: 日本クリスチャンアカデミー関東活動センター

■山口スタディツアー

スタディツアー『沿岸からのぞむ「在日の海」～下関・宇部・仙崎を巡る2泊3日の旅～』を開催しました。参加者を広く一般から募り、関東や関西から15名が山口に集いました。今回の旅では、実際に現地に行った時に歴史状況の想像を膨らませるため、『密航のち洗濯—ときどき作家』と『在日朝鮮人作家 尹紫遠未刊行作品選集』の2冊の本を参考書籍としました。数百万人にものぼる朝鮮人たちが日本の植民地時代にどのようにこの海を渡り、犠牲になっていったのか、現地で活動する人々の話も伺いながら沿岸からその海を眺め考えることをツアーの趣旨としました。

期間: 2026年3月13日～15日

参加者: 15名



■学寮運営事業

■友愛学舎

1908年創設の大学学部生のための寮。

●**舎生数**: 12名(4年生4名、3年生3名、2年生3名、新1年生2名)

●**活動**:

・朝の会(学期期間中の月曜日から金曜日、7時～7時30分)

聖書研究(コリントの信徒への手紙1とヨナ書)および学生発表が行われました。毎月第1金曜日は信愛学舎と合同礼拝を行いました。

・舎生会(毎月1回)

友愛活動・生活について話し合いました。

・年間活動

4月の活動開始に向け、新入生を含めたオリエンテーションキャンプを熱海にて実施し、寮生活の意義や奉仕園や友愛学舎の歴史を学びました。



■ゲストハウス

大学に在籍する正規留学生対象の寮。1号館2階201～207号室の計7部屋を運営。2025年度は延べ7名が在寮しました。新たに3名が入寮し、3名が退寮しました。現在2室の空きがあります。

■国際学舎

早稲田大学の外国人留学生・研究員寮。コミュニティールームにはレジデントアシスタント（RA）が滞在し、留学生のサポートを行っています。3寮（早大寮・西早稲田寮・奉仕園）合同ミーティングを定例で持ち、情報共有に努めるとともに業務改善のための意見交換を行いました。交換留学生の居住者数は、下記の表の通りです。その他、研究員19室に対し65名、染谷会館8室に対し37名分の滞在実績となりました。

2025年度国・地域別居住者数（合計239名、36の国と地域、RA含む）

アメリカ	33	中国	27	イギリス	21	韓国	19
ドイツ	18	日本	17	台湾	15	フランス	8
イタリア	6	カナダ	6	シンガポール	6	スウェーデン	6
オーストラリア	4	スペイン	4	タイ	4	オランダ	3
香港	3	デンマーク	3	ルーマニア	3	フィリピン	3
アイルランド	2	ベルギー	2	イスラエル	1	インド	1
インドネシア	1	オーストリア	1	スイス	1	チェコ	1
トルコ	1	ノルウェー	1	パプアニューギニア	1	ハンガリー	1
フィンランド	1	ブルガリア	1	ベトナム	1	ポーランド	1
マレーシア	1	ルクセンブルク	1				

■寮プログラム

早稲田奉仕園の学生寮は国際的な相互理解と交流をめざす教育プログラムを実施しています。

●ウェルカムパーティー

春にはRAが主催となり、事前準備から当日の進行まで丁寧に企画・運営を行いました。ゲームや交流アクティビティを通して参加者同士が自然に打ち解ける時間となりました。軽食を囲みながら、会話を楽しみ、寮生同士が親睦を深めました。また、秋には友愛学舎生主催で行われ、自己紹介やレクリエーションを通して会場は終始和やかな雰囲気になりました。友愛学舎生が心を込めて準備した企画により、多くの笑顔が見られる場となりました。来日したばかりの留学生が安心して新しい生活をスタートできるよう支えるとともに、寮生同士のつながりを育む大切な機会になりました。

開催日：4月5日（春季）／10月3日（秋季）

参加者：各回約70～80名

会場：リバティホール



●奉仕園クリスマス会

ろうそくを灯し過ごす「しずかなひととき」、RAの司会のもと交換留学生によるピアノ演奏や歌の披露が行われました。留学生のピアノ伴奏に合わせて参加者全員でクリスマスキャロルを歌いました。友愛学舎生による友愛劇も行われ、最後には多くの参加者がステージに上がって歌や踊りを楽しみました。その後は3号館ロビーに場所を移し、恒例のピザパーティーで交流を深めました。

開催日：12月13日

参加者：約60名

会場：スコットホール



●お弁当イベントー【Chill out with Obento ココロもカラダも癒される Hoshien ランチ】

交換留学生、RA、友愛学舎生、訪問研究員、職員が参加し、交流イベントを実施しました。イベントでは、早稲田奉仕園が長年お世話になっている早稲田の老舗「たかはし」による心のこもった二重弁当を提供しました。参加者の中には日本の弁当文化に初めて触れる留学生も多く、丁寧に盛り付けられた多彩なおかずを楽しみながら、日本ならではの食文化の魅力を感じている様子が見られました。食事を囲みながら自然な交流が生まれ、奉仕園で生活する人々が互いに親睦を深める貴重な機会となりました。

開催日：5月14日（春季）／11月13日（秋季）

参加者：各回13名／17名

会場：3号館ロビー



収益事業

■セミナーハウス事業

■施設の貸与

●会議室・ホール

学習会、語学教室、音楽練習やコンサート、講演会など学生・市民による学びの場・発表の場として多岐にわたってご利用いただきました。特に大学サークルや外国語・文芸・詩作サークルの定期的な利用が顕著でした。

●ギャラリー

絵画展の他、様々なジャンルの展示利用がありました。

3月29日	～	4月 4日	サイトウヤスヒロ展【絵画】
6月27日	～	7月 7日	キリスト教美術展
10月22日	～	10月26日	Contemporary Japanese Violin Makers【楽器】
10月31日	～	11月 4日	よねあり展 in 東京・早稲田 透明水彩と色鉛筆の世界
11月12日	～	11月17日	昭和100年 心のふるさと 草木染め・手織り 澤田優文子展
12月 3日	～	12月 7日	『ようやくまわりがみえてきた』【グループ展】
12月12日	～	12月14日	studio AL（株式会社ファム）【コンサート】
12月18日	～	12月23日	渡辺禎雄型染版画展 Vol.9 ～齋藤治子コレクション～
2月16日	～	2月27日	エフゲニー・フェルドマン写真展「ナワリヌイ-This is Navalny」

●撮影

フォトウエディング、ミュージックビデオ、ドキュメンタリー、ファッション雑誌、カタログ用の撮影で多くの利用をいただきました。

●所蔵作品の貸出

キリスト教美術の振興・発展および作品を通じてのキリスト教思想・文化への理解促進を目的として、渡辺禎雄型染版画の貸出事業を2024年5月に開始しました。11月に公益財団法人ウェスレー財団に20点を貸し出しました。

【貸出に関するお問い合わせ gallery@hoshien.or.jp】



■セミナーハウスプログラム

●荻野健講演会「今井兼次とスコットホール」

早稲田大学文化企画課との初共催により「早稲田芸術文化週間」の一環として講演会を開催しました。ヴォーリズ建築事務所の一色輝生氏による基調講演ではスコットホールの建築的魅力が解説され、続く画家・荻野健氏の講演では建築家・今井兼次の人物像や早稲田の歴史的景観が紹介されました。講演では戦災を免れた背景や設計思想、建築が持つ文化的・歴史的価値について理解が深められました。参加者からは「建築と歴史への関心が高まり、スコットホールの価値を再認識する機会となった」との感想がありました。

開催日：10月16日

参加者：100名以上



●チャリティ古本市

古本市の売上は、2025年11月に「アトットゥミャンマー」へ34,650円、そして2026年2月に開催されたナワリヌイ写真展の企画団体「AN写真展実行委員会」へ18,023円を寄付いたしました。

●スコットホール公開日・ガイドツアー

5月と10月の年2回ガイド付きツアーを開催。5月の参加人数は70名、10月は80名、2025年度より「見学のみ」を終了しました。

開催日：5月29日（春季）／10月30日（秋季）

参加者：延べ150名（抽選、事前予約制）



●スコットホール撮影セミナー

写真家の北田英治氏による建築写真の講義と実地撮影を実施しました。撮影では「何を撮るかを意識した構図」や遠近双方の視点を学び、講評ではテーマ設定や垂直性などについてアドバイスが行われました。参加者は多様な視点による表現や写真選定の重要性を実感し、スコットホールの新たな魅力発見と学習効果の高い機会となりました。

開催日：11月6日

参加者：10名



■駐車場・貸事務所等の賃貸、管理受託事業

月極駐車場、事務所の賃貸のほか、キリスト教会への施設貸出をしています。また、隣接する早稲田大学施設の管理もおこなっています。

■決算報告

正味財産増減計算書（2025年4月1日から2026年3月31日まで）

（単位：円）

科目				金額
Ⅰ. 一般正味財産 増減の部	1. 経常 増減の部	(1) 経常収益	事業収益	277,871,426
			受取補助金収益	884,000
			受取寄付金収益	2,082,511
			受取会費収益	535,000
			雑収益	399,605
		経常収益計		281,772,542
		(2) 経常費用	事業費	229,672,437
	管理費		18,733,111	
	経常費用計		248,405,548	
	当期経常増減額			33,366,994
	2. 経常外 増減の部	(1) 経常外収益	経常外収益計	0
		(2) 経常外費用	経常外費用計	0
		当期経常外増減額		0
税引前当期一般正味財産増減額			33,366,994	
法人税、住民税及び事業税			5,869,596	
当期一般正味財産増減額			27,497,398	
一般正味財産期首残高			802,469,979	
一般正味財産期末残高			829,967,377	
Ⅱ. 指定正味財産 増減の部	当期指定正味財産増減額			1,022,512
	指定正味財産期首残高			14,917,054
	指定正味財産期末残高			15,939,566
Ⅲ. 正味財産期末残高				845,906,943

貸借対照表（2026年3月31日現在）

（単位：円）

科目			金額	科目		金額
Ⅰ. 資産の部	1. 流動資産		133,362,946	Ⅱ. 負債の部	1. 流動負債	110,923,792
	2. 固定資産	(1)基本財産	468,650,427		2. 固定負債	296,757,983
		(2)特定資産	34,780,286		負債合計	407,681,775
		(3)その他	616,795,059	Ⅲ. 正味財産の部	1. 指定正味財産	15,939,566
		固定資産			2. 一般正味財産	829,967,377
	固定資産合計	1,120,225,772	正味財産合計		845,906,943	
資産合計			1,253,588,718	負債及び正味財産合計		1,253,588,718

■役員等名簿（2026 年 3 月 31 日現在）

理事

理事長（代表理事）	内田勝一（早稲田大学元副総長）
専務理事	阿部千秋（早稲田奉仕園）
常任理事	小川忠（跡見学園女子大学教授）
	古賀博（日本基督教団早稲田教会牧師）
	吉原洋（エコノミスト）

理事	篠原初枝（早稲田大学教授）	西川嗣夫（早稲田奉仕園）
	土屋忍（武蔵野大学教授）	土方恭子（弁護士）
	名取智子（日本キリスト教海外医療協力会事務局次長）	

評議員

天田信義（日本メディア教育株式会社）	関伸子（カンバーランドキリスト長老教会東小金井教会牧師）
伊藤圭之（京都市役所）	友金孝夫（早稲田大学学生部事務部長）
大江浩（賛育会赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト事務局長）	長尾有起（日本基督教団王子教会牧師）
岡崎菜佳子（日本基督教団都民教会牧師）	原真由美（関東学院大学講師）
小川有閑（浄土宗蓮宝寺住職）	二子石優（東北大学特任准教授）
尾内一美（早稲田大学国際部事務部長）	李明生（日本福音ルーテルむさしの教会牧師）
杉尾麻帆（ヨンソンテコンドー道場）	

監事

大橋正明（恵泉女学園大学名誉教授）	山崎龍一（お茶の水クリスチャンセンター常務理事）
-------------------	--------------------------

就 任：土方恭子理事、長尾有起評議員、二子石優評議員（2025 年 6 月 26 日付）

退 任：相賀昇理事、稲垣隆一理事、土方恭子評議員（2025 年 6 月 26 日付）

機関紙、報告書をご希望の方は郵送いたしますので、メール（press@hoshien.or.jp）にご連絡ください。

- ・ 奉仕園通信（機関紙）
- ・ 沖縄フィールドワーク報告書（冊子）
- ・ 日中韩大学生リーダーシップ育成キャンプ報告書（冊子）
- ・ 山口スタディツアー報告書（冊子）
- ・ 友愛学舎文集（冊子）



www.hoshien.or.jp



公益財団法人 早稲田奉仕園

発行日 2026 年 8 月 10 日

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-1

Tel 03-3205-5401

